

# 11 共通教科 家庭

<目次>

- 1 「指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き」 P 1～2
  
- 2 「指導と評価の年間計画」 P 3
  - 家庭基礎
  
- 3 「单元ごとの指導と評価の計画」 P 4～8
  - 家庭基礎
    - 科目の目標
    - 科目の評価の観点及びその趣旨
    - 内容のまとめりごと
      - 目標
      - 評価規準
    - 单元ごと
      - 目標
      - 評価規準
      - 各授業時間ごとの主な内容
      - 授業指導案例

# I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

## 1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

## 2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨

…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」…内容のまとまりごとに4観点別に示した目標、評価規準

- ・内容のまとまりごとの目標 …学習指導要領の「内容」の(1)(2) …の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとまりごとの評価規準…内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとまり」とは、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。「家庭総合」においては、学習指導要領の内容の(1)、(2)、(3)、(5)の大項目を内容のまとまりとし、内容の(4)については、ア、イなどの中項目を内容のまとまりとした。

◎単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標 …実際の使用教科書等にもとづいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。
- ・単元ごとの評価規準…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

◎各授業時間ごとの具体的評価規準と方法

- ・各授業ごとに単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの
- ・本時の目標…上記の「指導と評価の年間計画」及び科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」、内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」を反映したものでなければならない。
- ・評価規準 …「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。
- ・評価方法 …評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

単元ごとの指導と評価の計画<例>

□単元名：○○○○

□単元の目標

○○○○○
-------

□各授業時間ごとの指導と評価の計画（例）

おもな学習 内容	ねらい	学習活 動	時 間	学習活動における具体の評価規準				評価方法等
				関心・意欲 ・態度	思考・判断 ・表現	技能	知識・理解	
・学習内容 の主な項 目を記載								・評価の具 体的な方 法及び指 導のポイ ントを記 載

Ⅱ 指導と評価の年間計画(家庭基礎) <例>

科目名：家庭基礎

学科：〇〇科

岐阜県立 〇〇 高等学校

目標 【学習指導要領】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解		
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。そのため、生活をする上での様々な問題を主体的に解決する能力の育成を目指して、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を充実させる。								
月	単元名	使用教科書項目	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法				
4月	オリエンテーション ホームプロジェクト	・ 授業説明「家庭基礎」の学び方	1	・ 家庭基礎を学ぶ目的を理解する。		○	○	○	
		・ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	3	・ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義を理解する。 ・ ホームプロジェクトの実施と発表を行い、意味と進め方について理解する。 (実施時期は長期休業中に行うため計画は7月、発表は9月に行う)		○	○	○	
5月	第1章 自分らしい人生をつくる	1. 生涯発達の視点	1	・ 各ライフステージの特徴と課題を理解する。	ワークシート 行動観察 ライフプラン用紙	○	○	○	
		2. 青年期の課題							
		3. 目標を持って生きる	1	・ 生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、職業選択について考える。			○	○	○
		4. 人生をつくる	2	・ 固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を理解する。			○	○	○
		5. 家族・家庭を見つめる	3	・ 家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し、現在の動きを理解する。			○	○	○
		6. これからの家庭生活と社会	3	・ 家事労働・職業労働について知りワーク・ライフ・バランスについて考える。			○	○	○
6月	第2章 子どもと共に育つ	1. 子どもの育つ力を知る	3	・ 子どもの育つ力と発達段階を理解する。	行動観察 ワークシート 調査記録 体験レポート 中間調査	○	○	○	
		2. 親として共に育つ		・ 人生の初期における親・家族や周囲の人々との関わりの大切さを学ぶ。 ・ 子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。			○	○	○
		3. 子どもとの触れ合いから学ぶ	4				○	○	○
		4. これからの保育環境	2	・ 子どもを取り巻く社会変化の現状について理解する。 ・ 児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。			○	○	○
7月	第3章 高齢社会を生きる	1. 高齢期を理解する	2	・ 高齢社会の現状と課題を理解している。	行動観察 ワークシート	○	○	○	
		2. 高齢者の心身の特徴	1	・ 高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。			○	○	○
		3. これからの高齢社会	2	・ 身近な高齢者との触れ合いの機会を得て、高齢者を理解する。 ・ 高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。			○	○	○
8・9月	第4章 共に生き、共に支える	1. 私たちの生活と福祉	1	・ 一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。	行動観察 ワークシート	○	○	○	
		2. 共に生きる	1	・ 多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解しユニバーサルデザインを具体的に考える。			○	○	○
10月	第5章 食生活をつくる	1. 食生活について考える	3	・ 日常の食生活を振り返り、現代の食生活の課題について考える。	課題提出 ワークシート 行動観察	○	○	○	
		2. 食事と栄養・食品	5	・ 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。			○	○	○
		3. 食生活の安全と衛生	2	・ 食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項について理解する。			○	○	○
		4. 生涯の健康を見通した食事計画	2	・ 食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族の食生活について考える。 ・ 青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を理解する。			○	○	○
		5. 調理の基礎	5	・ 基本的な調理技術を学び、日常食を作ることができる。			○	○	○
		6. これからの食生活	3	・ 食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ・ 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。			○	○	○
11月	第6章 衣生活をつくる	1. 被服の役割を考える	1	・ 被服のさまざまな役割を理解する。	ワークシート 行動観察	○	○	○	
		2. 被服を入手する	2	・ 被服材料の特徴を理解し、組成表示・取扱説明表示・サイズ表示などの意味について理解する。			○	○	○
		3. 被服を管理する	1	・ 汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法について理解する。			○	○	○
		4. これからの衣生活	1	・ 生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。			○	○	○
12月	第7章 住生活をつくる	5. 布を用いた生活の知恵	1	・ 布を使った生活の工夫を考える。	課題提出	○	○	○	
		1. 住生活について考える	1	・ 住居の機能や間取りの基礎知識を理解する。			○	○	○
		2. 住生活の計画と選択	1	・ ライフステージにあった住居を考える。			○	○	○
1月	第8章 経済生活を営む	3. 住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何かを考える。	2			○	○	○	
		1. 職業生活を設計する	1	・ 高校卒業後の経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。	行動観察 ワークシート	○	○	○	
		2. 計画的に使う	1	・ 生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを理解する。			○	○	○
		3. 国民経済・国際経済と家庭の経済生活	1	・ 国際化、複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。			○	○	○
		4. 消費行動と意思決定	1	・ 消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解する。			○	○	○
		5. 現代の消費社会	1	・ キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。			○	○	○
6. これからの消費生活と環境	2	・ 消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。 ・ 大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。		○		○	○		
3月	第9章 生活を設計する	生涯を見通す	1	・ 今までの学習を踏まえ、キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめる。	ワークシート 行動観察 学年末調査	○	○	○	
			1	・ 自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。			○	○	○
合計時間数			70						

## 単元ごとの指導と評価の計画

□単元名 第1章 自分らしい人生をつくる

(1) 生涯発達の視点 (2) 青年期の課題 (3) 目標を持って生きる (4) 人生をつくる (5) 家族・家庭を見つめる (6) これからの家庭生活と社会

□単元の目標

人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解させるとともに、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉について考えさせ、共に支え合って生活することの重要性について認識させる。

□各授業時間ごとの指導と評価の計画

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
1章 自分らしい人生をつくる (1) 生涯発達の視点 (2) 青年期の課題 (3) 目標を持って生きる (4) 人生をつくる	○今後の人生を充実したものとするために、自分自身を見つめるとともに、人の一生の変化を理解し、青年期の生き方について考える。	<b>家族インタビュー</b> ・インタビュー内容を参考に、ライフプランを立てる。各ライフステージの発達課題を考える。	1		①家族へのインタビューから、各ライフステージの発達課題を考えることができる。	①これまでの人生の歩みについて、家族から聞き取り調査することができる。		・ワークシート(家族インタビュー) ・行動観察 ・ペーパーテスト
		<b>ロールプレイング(人生相談)</b> ・ジェンダーにとらわれない、自分らしい生き方とは何かを考える。	1		②ロールプレイングを通して自分らしい生き方について考えをまとめることができる。		①ロールプレイングを通して、ジェンダーについて理解を深めている。	・ワークシート(ジェンダー人生相談) ・行動観察 ・ペーパーテスト
		<b>人生カード(40人の人生)</b> ・ライフプランを実現するためには、青年期の課題をどのように達成するかを考え、表現できる。	2		③自分の送りたい人生に近づくために、青年期をどう生きるかを考えることができる。	②自分の人生カードについて考察し、意見交換することができる。		・ワークシート(40人の人生) ・行動観察 ・ペーパーテスト
(5) 家族・家庭を見つめる	○現代の家族・家庭の特徴を理解し、家族の人間関係について考える。 ○男女が互いに助け合い、共につくる家庭とはどのようなものか考えさせる。 ○家族に関する法律の変遷及びその内容を理解させる。	<b>KJ法</b> ・家族のイメージを記述し、家族や家庭の持つ機能を学ぶ。	1	①家族のイメージを主体的に考えようとしている。		③KJ法を使って、家族や家庭の持つ機能をグループでまとめることができる。		・ワークシート(家族・家庭の持つ機能) ・行動観察 ・ペーパーテスト
		<b>ロールプレイング(子育てシミュレーション)</b> ・家庭の役割について考え、男女が協力して家族の一員としての役割を果たすための方法を考える。	1		④ロールプレイングを通して、男女が協力して築く家族・家庭にするための具体策を考えている。			・ワークシート(子育てシミュレーション) ・行動観察 ・ペーパーテスト
		<b>ディベート</b>	1			④2人対抗ディベート	②家族に関する法律	・ワークシート(ディバ

		・家族に関する法律について民法を中心に理解し、現在の動きを知る。				トを通して、民法改正内容について、意見をまとめることができる。	の内容を理解している。	トをやってみよう) ・行動観察 ・ペーパーテスト	
(6) これからの家庭生活と社会	○男女が家庭生活と職業生活を両立するための法律や制度を理解させ、ワーク・ライフ・バランスの実現のために将来どのように行動するか考えさせる。	<b>講演会 (市役所職員)</b> ・〇〇市の男女共同参画の現状などについて知る。	1	②〇〇市の男女共同参画について関心を持つようとしている。			③〇〇市の男女共同参画の現状を理解している。	・ワークシート ・行動観察 ・ペーパーテスト	
		<b>フィッシュボーン法</b> ・男女共同参画に係わる現状・課題・対策について考える。 ・ワーク・ライフ・バランスが実現できる社会に向けて、自らの生き方を考えることができる。	1	③グループで協力し、課題に取り組もうとしている。	⑤〇〇市の抱える課題や対策について考えることができる。				・ワークシート (男女共同参画の課題と対策を考えよう)
		<b>男女共同参画カルタの作成</b> ・ミニホームプロジェクトの課題について理解し、取り組むことができる。	1		⑥ワーク・ライフ・バランスの重要性を理解し、自らの生き方を考えることができる。	⑤〇〇市の男女共同参画の課題、その要因や対策について、グループで意見を共有し、発表することができる。			・ワークシート (これからの生き方を考えてみよう) ・行動観察 ・ペーパーテスト ・作品製作 (カルタ)
総 時 間 数			10						

1 単元・小単元	第1章 自分らしい人生をつくる (6) これからの家庭生活と社会
2 小単元の目標	<p>生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題である自立や男女の平等と協力などについて認識させるとともに、生涯を見通した青年期の生き方について考えさせる。</p> <p>家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解させ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて考えさせるとともに、家族の一員としての役割を果たし男女が協力して家庭を築き生活を営むことの重要性について認識させる。</p>
3 本例における生徒の実態	<p>本校総合学科では、家庭基礎2単位を1年で履修している。総合学科は自分の将来の目標を見据え、必要な授業を選択履修していく単位制の学科である。そのため、多くの生徒が将来の職業生活については、大まかなことは考えている。</p> <p>しかし、生涯を見通したライフプランを立てることが難しい生徒が多い。その理由として、これまでの人生において自身で意思決定をする場面が少なく、自立度が低い生徒が多いことが考えられる。また、生徒の家族形態も多様化しており家族をつくるなどの将来に対して、思い描けない生徒もいる。</p> <p>学習に向かう態度は意欲的であるが、自分の考えを表現したりする場面では消極的になる生徒が多い。多くの生徒が自分自身に自信が持てず、自己肯定ができていない。そのため、クラスの仲間と協力したり仲間と話し合っ物事を進めることが苦手な生徒が多いと感じている。</p>
4 育てたい資質・能力	<p>高校生の多くは、これからの生き方や進路選択など、将来設計を立てる上で多くの課題に直面している。</p> <p>生涯発達の視点で、将来の家庭生活の充実と向上を図り、男女が協力し自分らしい生き方ができるように、家族や家庭に関する知識を習得させ、青年期を意欲的に過ごして欲しいと考える。そのためには、生徒が主体的に学ぶ学習機会を増やし、自分の意見や考えを人に伝え、学習したことを地域に発信できる力を身に付けさせたい。</p> <p>さらに、理由や根拠を論述したり、適切な解決方法を探究したりする活動を通して、「周囲の人の意見を聞く、それをまとめる、仲間と共有する」ことを目指した学習方法を取り入れ「仲間と話し合う、仲間と結論を導き出す」「地域の現状を知る、それに対する対策などを考える、それを地域に発信する」「話し合った結果から自分の生き方を考える」ことができる学習方法への発展を目指したい。この単元を通して、将来、さまざまな課題に対して主体的に解決していく力を身に付け、自信を持って生活を創造することができる生徒に育てたい。</p>

#### 【参考文献】

- 新家庭総合 未来をひらく生き方とパートナーシップ 実教出版
- 家庭総合 自立・共生・創造 東京書籍（新学習指導要領対応）
- 家教連 家庭科研究 NPO法人家庭科教育研究者連盟
- 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 共通教科 「家庭」  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ブレインライティング：短時間で大量のアイデアを叩き出す「沈黙の発想会議」東洋経済新報社
- 内閣府男女共同参画局HP <http://www.gender.go.jp/index.html>

6 □学指指導案

科目名	家庭基礎			
単元名	第1章 自分らしい人生をつくる (6) これからの家庭生活と社会			
本時の主題	男女共同参画について考えよう (14時間目/14時間)			
指導観	<p>平成11年に「男女共同参画社会基本法」が制定され、本校のある〇〇市でも、〇〇市男女共同参画プラン「ともに創ろう! あったか〇〇市」が平成17年度に策定された。しかしながら、現実には固定的な性別役割分担意識が未だに根強く、地域社会において女性の参画が進んでいない分野も数多くあるなど、地域における男女共同参画が必ずしも順調に進んでいない状況もみられる。本時では、〇〇市職員から地域の現状についての講演を聞いたのち、地域で暮らす生活者として課題を見つけ、男女共同参画を推進するための対策を主体的に考えさせたい。そして、男女共同参画社会の実現のためには、家庭、地域、職場、学校などあらゆる分野で一人ひとりが、互いの人権を尊重し、連携・協力し合い社会全体で支えていくという意識を高め、ワーク・ライフ・バランスの達成も重要であることを理解させたい。また、個人的な考えをまとめることで終わらせず、グループで意見を共有し、男女共同参画を取り巻く課題について、互いに考えを深めさせたい。</p> <p>また、この授業を通して、職業に就くことや男女が協力して家庭生活を支えることを前向きに捉えられる意識の変化へとつなげたい。そして、この意識変化をライフプランへ反映し、主体的に人生を考えられる生徒を育成していきたいと考えている。</p>			
本時の目標	〇〇市の男女共同参画の課題、その要因や対策について、グループで意見を共有し、発表することができる。【技能】ワーク・ライフ・バランスの重要性を理解し、自らの生き方を考えることができる。【思考・判断・表現】			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について 教師の指導	
導入5分	本時の目標確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画社会基本法ができた経緯を確認する。</li> <li>市職員の講演内容を振り返り、〇〇市の男女共同参画における現状を確認する。</li> <li>本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演内容を振り返り、本時の目標を確認させる。</li> </ul>	
展開35分	発表	<ol style="list-style-type: none"> <li>前時のグループ発表を振り返る。</li> <li>各グループの発表、発表について記録する。</li> </ol> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域で根強く残る性別役割意識に気付く。</li> <li>〇〇市の現状にも関わりがあることに気付く。</li> <li>自分だったら、と将来の人生を展望できる。</li> </ul> <p>ワーク・ライフ・バランスについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各グループの発表から、男女共同参画にかかわるキーワードを確認する。</li> </ol> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男性の参画 ・ワーク・ライフ・バランス</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>本校の子育て中の教諭のインタビューと、ホームプロジェクト「家事労働調査」の結果を紹介し、身近な人のワーク・ライフ・バランスの現状を知る。</li> </ol>	<p>○評価規準【技能】一⑥</p> <p>〇〇市の男女共同参画の課題、その要因や対策について、グループで意見を共有し、発表することができる。</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート⑩-5</li> <li>フィッシュボーン完成図</li> <li>発表内容・発表態度</li> </ul> <p>Aの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内の意見がよくまとまった発表になっている。</li> <li>作成したフィッシュボーン図を使って、ポイントを押さえた、わかりやすい説明ができています。</li> </ul>	<p>前時まで発表したグループのフィッシュボーン図と、評価表を見て、内容を再確認させる。</p> <p>&lt;Bを実現するための指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表内容について、グループの仲間と確認するように促す。</li> </ul> <p>&lt;Cへの手だて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの仲間の意見をよく聞き、発表における自分の役割を確認させる。</li> </ul> <p>国の新たな取り組みであるワーク・ライフ・バランスの意味を説明し、男女共同参画社会を実現するためには、ワーク・ライフ・バランスの達成が重要であることを知らせる。</p>
まとめ10分	本時のまとめ	<ol style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画社会実現に向けて、ワーク・ライフ・バランスを意識した生き方を考える。</li> </ol> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家事、育児は男女が協力してやっていきたい。</li> <li>今から家事を手伝いたい・料理を作れるようになりたい。</li> <li>育児休暇をとってみたい(男子)。</li> <li>家事や子育てに協力的な会社で就職したい。</li> </ul> <p>・次時の確認</p>	<p>○評価規準【思考・判断・表現】</p> <p>⑦</p> <p>ワーク・ライフ・バランスの重要性を理解し、自らの生き方を考えることができる。</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート⑩-6</li> <li>発表内容・発表態度</li> </ul> <p>Aの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画やワーク・ライフ・バランスを理解し、自らの生き方を前向きに考えることができています。</li> </ul>	<p>&lt;Bを実現するための指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業前と後の自分の考えの変化や深まりを比較して、まとめさせる。</li> </ul> <p>&lt;Cへの手だて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の自分の生活を想像して考えるように促す。</li> </ul>

□工夫している点

- 男女共同参画の課題をより身近なものとして認識させるために、自分たちが暮らしている〇〇市の現状を知り、課題やその要因、具体的な対策までを考える授業とした。講演会では、〇〇市の現状をより具体的に説明していただけるよう依頼した。
- グループ内の意見をまとめる手段として、フィッシュボーン図を活用した。製作種か半う話し合いであるので、意見交換が活発に行われることを期待した。
- 講演会前、本時の授業後に、男女共同参画について、自分の考えをまとめさせた。こうすることで、問題意識を持って授業に取り組み、思考の過程がわかるようにした。
- グループ発表に共通するキーワードとして「男性の参画」「女性の意識改革」「ワーク・ライフ・バランス」などが考えられる。生徒に身近な教諭にそれらのキーワードについてインタビューし、男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの現状について、より深く理解できるようにした。



□実践後の評価結果

	学習活動における 具体的評価基準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	<b>評価基準【技能】一⑥</b> 〇〇市の男女共同参画の課題、その要因や対策について、グループで意見を共有し、発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内の意見がよくまとまった発表になっている。</li> <li>作成したフィッシュボーン図を使って、ポイントを押さえた、わかりやすい説明ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇市の男女共同参画の課題やその現状を理解できていないため、仲間と意見交流ができない。</li> </ul>
生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会の内容や〇〇市の男女共同参画に関するデータを活用して、仲間と相談しながら発表内容を考え、発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的にリーダーとなってグループの意見をまとめている。</li> <li>自分で調べた内容を追加し、わかりやすい説明ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ発表で参加しようとしていない。</li> </ul>
発表の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合った内容について、自分の発表する事柄を原稿にまとめることができている。</li> <li>発表場面では自分の役割を果たすことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーとして、グループ内の発表内容や仲間の役割分担などをまとめている。</li> <li>フィッシュボーン図を指し示すなど、わかりやすい説明を行っている。</li> <li>関連する新聞記事などを紹介し、発表内容を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内での役割が不十分で、発表に参加できていない。</li> </ul>
	31%	69%	0%

	学習活動における 具体的評価基準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	<b>評価基準【思考・判断・表現】一⑦</b> ワーク・ライフ・バランスの重要性を理解し、自らの生き方を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画やワーク・ライフ・バランスを理解し、自らの生き方を前向きに考えることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク・ライフ・バランスの重要性を理解できていない。</li> </ul>
生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を通して自分の考えが深まったことを確認している。</li> <li>ワーク・ライフ・バランスを意識して、今後の人生について考えをまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を踏まえて、男女共同参画やワーク・ライフ・バランスを意識した人生の送り方について、具体的に考えることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの人生について考えようとしていない。</li> </ul>
記述例	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性が育児休暇をとってもいいという発表が多くありました。将来、両親が育児休暇を取って、子どもと触れ合える家庭を作りたいです。</li> <li>ワーク・ライフ・バランスの実現が難しいと感じました。でも、実現できるような夫婦や家族を作りたいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来、保育士になりたいと思っているので、園児に対してジェンダー意識をすり込まないようにしたいと思います。そのためにも、男女共同参画を意識して生きていきたいと思いました。</li> <li>家族のために働くのはもちろんですが、積極的に育児や家事にも参加したいです。そのためにも、今から家事にも関心を持ち、料理や掃除などに挑戦したいです。</li> <li>今回の学習を通してワーク・ライフ・バランスを実現するのが難しいことが分かりました。収入面の困難さもあるので、国や市、企業などの政策や取り組みを整えていく必要があると思いました。そのためにもこれからは政治家などにも関心を持って行かなければならないと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未記入</li> </ul>
	77%	23%	0%

□授業後の課題と改善

<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画社会というのは、生徒たちの今の生活には身近ではないため、これまでの座学の授業では法律名など知識の定着で終わっていた。そのため、地域社会に関わる教材を使用し自分たちの身近な課題に気づき、その課題を解決する提案を考える授業を展開する中で、男女共同参画社会をより身近に感じこれからの生き方を考えようとする意欲を高めることができた。しかし、男女共同参画を意識して、自分のこれからの生き方について具体的に考えられる生徒は少なかった。今後は、家庭科の他分野の学習の中でも男女共同参画社会に触れ、生徒の意識を高めていかなければならないと感じた。</li> <li>「仲間と話し合う」「仲間と結論を導き出す」ことが苦手な生徒も多かったが、この單元の中ではそういった場面を多く設定し体験したことで本時では楽しみながら仲間との活動に参加している生徒がほとんどであった。また、仲間と話し合いながら「フィッシュボーン図」を製作する中で生徒のコミュニケーション能力が向上した。グループ学習は、時間がかかったりこちらの意図する結論が出ないこともあるが、今後いろいろな場面で取り入れていく必要性を感じた。</li> <li>本時では、福祉科目「社会福祉基礎」との連携を図った。「社会福祉基礎」で、男性、女性、高齢者、子ども、障がい者などすべての人々が安心して暮らせる社会という題目で新聞記事を集め、グループ毎に模造紙にまとめ掲示した。この学習が、本時の男女共同参画社会についての事前学習となり、本時ではさまざまな角度から男女共同参画社会を実現するための提案が考えられていた。他教科の学習が活かされることによって、生徒の知識の定着や思考力が高まることを実感した。</li> <li>KJ法を発展した形の「フィッシュボーン法」を活用し、課題を整理した上でそれについての提案を考えることができた。今後も生徒の実態を踏まえた上で、言語活動を充実させる様々な手法を研究、検討していかなければならない。</li> </ul>
--

